

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
教育目標：「夢をもち 心豊かに たくましく生きる 子どもを育てる」 児童像：自ら学ぶ子 思いやりのある子 行動するたくましい子	確かな学力の定着・向上 (ア)言葉と計算の力(イ)特別支援の観点を取り入れた分かりやすい授業(ウ)「考える力」「伝え合う力」の育成につながる授業多様な問題を解く場づくり(エ)読書の推進と家庭学習の充実・習慣化 心をはぐくむ活動の充実(ア)夢や目標について考える環境づくり(イ)一人一人のよさを認める。 (ウ)課題のある子や支援のいる子を核にした学級づくり(エ)気づいたことを進んでする。(オ)地域人材との交流 (カ)きびきびとした集団行動 たくましい心と体の育成(ア)進んであいさつをする。(イ)運動の習慣化(ウ)正しい生活リズム、望ましい食習慣(エ)安全教育の充実



【学力状況調査の結果】 (全国) 国語の基礎問題では「話す・聞く」「読む」の正答率は、県平均を上回っている。 算数の基礎問題では、ほぼ全ての領域で正答率が県の平均を上回り、良好だった。 国語の基礎問題では、「書くこと」の正答率が低い。特に、「文の意味を考え、接続語を加えて1つの文を2つに分けて書く」問題は、県正答率をさらに下回る。国語活用問題では、「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用して書く、複数の内容を関係付けながら自分の考えを書く」といった問題の正答率がかなり低い。 「選択が正しい理由を記述する」「表から数値情報を取り出し、比例でない理由を記述する」「示された分け方で2つの三角形の面積が等しいことを書く」などの正答率が低い。 (県) 4教科とも学力は向上している。国語、社会、数学については県平均を大きく上回っている。 国語では、「漢字の読み」「文法や語句に関する知識」「朗読」の正答率がかなり高い。 社会では、平均正答率がかなり高く、領域(内容)では、「国土と地域の様子」「政治」の正答率が高い。 数学は、全領域で県平均を上回っている。特に、「解決方法を既習事項を活用して考える、説明する」など、「数学的な考え方」は正答率がかなり高い。質問紙の回答からも約6割の生徒が記述への抵抗感が少ないことが分かる。 理科は、知識・理解は高いが、活用問題は県平均並である。 国語の「文章の読み取り」「漢字の書き取り」が結果の中ではやや低い。 社会科では、資料の中から根拠を見つけ出し説明する問題の正答率がやや低い。 数学では、「小数の計算」「分数の意味理解」「立方体の辺や面の位置関係」などの基礎的事項の徹底を図る必要がある。 理科では、「顕微鏡の使い方」「振り子の運動」の正答率が県平均より低い。	【学習状況調査の結果】 全国 朝食は100%とれている。睡眠時間は8～10時間の分布が多い。 家庭学習は100%できている。地域の人や異学年との交流もよくできている。 近所の人への挨拶はよくできている。手伝いもよくできている。 読書の時間は1日30分くらいと回答する割合が多く、読書時間は短い。 テレビ・DVD等の視聴時間は1日3～4時間と長めである。 自己肯定感がやや低い。 県 「きまりや約束を守る」「あいさつをする」「場面や相手に応じた言葉遣いをする」「人の役に立ちたいと思っている」と回答する生徒が多く、道徳的な規範意識が高い。 落ち着いて学習に取り組み、宿題や予習・復習をする習慣が身に付いている生徒が多い。また、授業内容が「よく分かる」と回答している生徒も多い。 テレビ視聴、ゲームをする時間が多く、読書をする時間が少ない。 苦手な学習に向かう意識が弱い。 新聞・ニュース、地域の行事等に関心が薄い。
---	--



成果と課題	課題に対応した改善方法
成果 ・国語は、「漢字の読み」「ことわざの意味」など、基礎的な言語事項の理解は進んできている。算数は、整数の四則計算をはじめ、面積の求め方、図形の意味、グラフのよみなど、基礎的な知識や技能が身に付いてきている。 課題 ・国語は、「漢字の書き取り」や「文の意味を読み取り、接続語を使って2文に分けること」など基礎的な理解を図る必要がある。また、長文を読み取り、問われていることに必要な情報(言葉)を取り出し、それらを使って、自分の考えを構成してノートなどに書いたり、説明したりする力を補充する必要がある。算数は、小数の計算の位取りや合同の意味、単位量あたりの見方などの定着に課題がある。また、問題文の題意や表の数値やグラフの様子を読み取り、既習事項や必要な情報を活用したり、根拠にしたりして自分の考えを記述したり、説明したりすることに課題がある。	授業方法の充実と改善 ・自力解決場面では、自分の考えがもてるような活動や問いかけの支援をし、その中で、既習事項をどのように活用したか、根拠は何かをはっきりさせた記述ができる授業を実践していく。また、記述したことをもとに互いの考えを伝え合い深めやすくする場の保障と話し合わせ方の工夫を取り入れた授業を実践していく。 ・具体的な手法としては、自分の考えは か を問い、なぜ と思うか、なぜ と思うかを文章中の言葉や既習事項・表、グラフなどの資料を活用してその根拠や理由付けをしていくなどの授業を工夫する。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
児童に次のような内容で9月、12月、3月とアンケートを採り、意識の変容をみることで、指導の成果を検証する。 Aよくできる Bまあまあできる Cあまりできない Dできない 1習った漢字は、書くことができる 2国語の時間に、自分の考え文章にある言葉を理由に書くことができる。 3国語の時間に、進んで自分の考えを話したり、説明したりできる。 4習った計算(たし算、ひき算、かけ算、わり算 小数&分数についても)は、正しくできる。 5算数の時間に、自分の考えを分かっていることを理由にして書くことができる。 6算数の時間に、進んで自分の考えを話したり、説明したりできる。 7授業中、友達と考えを発表し合うのは好きなことである。 8長い問題文でも、何度も読んで頑張って問題を解こうとしている。 9家での学習は、毎日、学年に合った時間(1年生20分、…6年生70分)する 10家の人は、宿題をした確かめをしてくれて、連絡帳にサインをしてくれる。 11本を読むことは好きで、毎週1さつ以上読んでいる。 日々の授業で検証する。 研究授業で検証する。	各項目で「Aよくできる」「Bまあまあできる」の人数の割合を70%以上にする。 日々の授業では、70%以上の児童が自分の思いや考えを理由を付けて話することができる。 研究授業では80%以上の児童が自分の思いや考えを既習事項を根拠にして話す(説明)することができる。